

今月は物語文の読解力の身につけ方について説明します。

物語文の読解では、場面をしっかりとらえ、登場人物の心情を読み取ることが求められます。また、その物語の主題についても理解することが大切です。

まず、場面のとらえ方について説明していきます。物語文を読むときには、「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」かを意識しましょう。場面はこの4つの要素で構成されています。つまり、時間、場所、登場人物、出来事に注目します。文章の初めの部分を読むときには、ゆっくりと丁寧に読んで、頭の中で登場人物の関係を整理しながら読むようにします。登場人物がたくさん出てくる文章では、人物関係をメモしながら読むとよいでしょう。

この場面を構成する4つの要素は、物語が進むにつれて変化していきます。時間や場所が変化したり、新しい登場人物が出てきたり、新たな出来事が起こったところで、場面が変化します。説明・論説文で意味段落を意識して読んだように、物語文では場面の展開を意識して読めるようになることが大切になります。

そして、それぞれの場面の中で、「出来事」→「心情」→「行動」という流れを押さえましょう。物語文の読解問題では、心情の説明問題がよく出題されます。登場人物の心情を理解しながら文章を読めるようになることが、入試問題を攻略する鍵となります。物語の中では、ある出来事が起こり、その出来事によって登場人物に心情が生まれます。その心情が、行動や動作となって表れます。この「出来事」→「心情」→「行動」という流れが繰り返され、物語が進んでいきます。また、会話の流れにも気をつけるようにしてください。その会話文がどういう意図で発言され、それを聞いた人物がどう受け止めて、どう返しているかを考えながら読んでみてください。

これまでに述べてきたことを身につけるためには、お子様に物語のあらすじを口頭で説明させるようにするのが効果的です。「出来事」→「心情」→「行動」に注目してあらすじをとらえ、それを説明させる練習を繰り返し行っていけば、自分で物語を読んでいくときにも、「出来事」→「心情」→「行動」という流れを意識できるようになっていきます。最後に物語の主題のとらえ方について説明します。物語文の作者のメッセージを読み取っていくことは、問題を解く上で重要なポイントとなります。主題を読み取るには、「変化」に注目するのがコツです。ある出来事をきっかけとして、物語の前半と後半で主人公の考え方や心情に変化があったとします。その変化に注目すると、主題が見えてくることがよくあります。たとえば、初めはうまくいっていなかった親子関係が、何らかの出来事がきっかけとなって好転したとします。そのような文章は親子の愛情や絆をテーマとして書かれた物語なのだと理解できます。物語文を読み終えたときに、必ず主題を考えるようにしましょう。主題を意識できていないと、設問を解くときに間違った方向に考えてしまったり、記述式の問題で焦点のぼやけた答案を書いてしまう可能性があるので注意が必要です。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第7回

今回は心情説明の記述を学習します。心情の記述では、「きっかけとなる出来事」と「心情」の2ポイントをまとめるようにします。「きっかけとなる出来事」から考えた方がよいか、「心情」そのものから考えた方がよいかは、傍線が引かれている部分によって決まります。今回の授業で学びとってほしいと思います。

第8回

今回は前回に引き続き心情説明の記述を学習します。傍線前後の会話文や、心情を類推するために重要になる行動に注目して、的確な解答を仕上げていく練習をしていきます。かなり難しい問題を扱いますが、しっかり考え抜いてほしいと思います。

第9回

今回は物語文における理由説明の記述を学習します。物語文の理由説明問題の大半は、心情に関わるもので、「きっかけ」「心情」「行動」が因果関係でつながっている点に注目して解いていきます。心情がらみではない問題は、事実関係をおさえ、因果関係をとらえるようにします。

第10回

今回は西大和学園中の入試問題研究を行います。60分で問題を解き、解説動画を見るようにしてください。はじめに問題全体を見て、どの問題から解き始めるか、戦略をたてましょう。大問3の段落整序の問題は、毎年出題される、西大和学園の特徴的な問題です。この設問を失点しないことが合否の鍵となります。

6 灘 WEB においては春休みを除いて、7 月までで中学受験に必要な単元の発展的なものも含めた基本をほぼすべて扱います。

テキストは、算数強化ツール(の中の「応用」部分の主に前半)と、灘特訓テキストを使用し、それぞれ独立した動画があり、いずれも特に重要な問題を中心に一部の問題を扱っています。

学習法は共通しており、先に動画を一通り見て、理解した上で、もう一度問題を解き直す…ということを繰り返していく方法と、動画で扱っている問題を確認して(動画においては、必ず問題を読み上げますので、その段階まで見て一旦動画を停めるというのもいいと思います)、一旦自力で問題に挑戦し、その後、動画を見た上で、ご自分がほぼ理解できていたと思われたら次の問題に進み、何らかの間違いがあったり、正解したものの、異なった解法や知識などが展開されたりした場合は、解き直しをする(新しい解法で解いてみる)というステップを入れた上で、次の問題に進むという方法があります。

この、解き直す…という段階を経ることにより、実力が飛躍的に向上していきます。

理想としては、間違ったり、新しい発見があったりした問題については、少し間を置いて(例えば、1 週間、1 ヶ月など)再度解き直しをするとより完璧になります。

あと、動画がない問題についても、余裕に合わせて取り組んでみてください。この場合は、付属の解答解説を参考に、間違ったところについては解き直しをすることをお奨めします。

算数強化ツール

◆第 7 回 (テキスト表記は 25 回…括弧内は以下同) 割合に関する文章題

割合に関する文章題となります。11はいい問題です。学習対象問題は 1~12です。13~22は余裕があったら取り組んでください。

◆第 8 回 (26 回) 割合と比に関する問題 1

割合や比に関する色々な問題を扱います。6, 7, 8, 12などについては、条件の整理の仕方を工夫してみましょう。学習対象問題は 1~14 と 16 と 25です。15, 17~24は余裕があったら取り組んでください。

◆第 9 回 (27 回) 和差に関する文章題 割合と比に関する問題 2(主に濃さ)

濃さを中心とした、割合と比に関する問題です。1, 7, 11, 14, 15辺りは特にしっかり押さえておきましょう。また、12, 13はよく似ています。学習対象問題は 1~15です。16~29は余裕があったら取り組んでください。

◆第10回 (28回) 割合に関する文章題 割合と比に関する問題 3(主に売買)

売買を中心とした割合に関する文章題となります。5は複雑ですが、いい練習になる問題です。8は一種のつるかめ算ですが、少々難しい問題です。学習対象問題は1~9と13です。10~12, 14~23は余裕があったら取り組んでください。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の前半の部分を扱いますが、少し引っかかることが多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

灘特訓テキスト

◆第7回 割合と比Ⅰ

割合と比に関する文章題です。2はどちらかというとな数論になります。

◆第8回 割合と比Ⅱ

主に仕事算と呼ばれる文章題が扱われています。3, 5, 15, 17は定番の問題です。また、10~14, 16, 19~21はニュートン算です。

◆第9回 割合と比Ⅲ

濃さの問題をはじめ、いろいろな割合と比に関する問題を扱っています。9は一見濃さの問題に見えませんが、濃さを使って解くことができます。あと、11, 12は重要です。

◆第10回 平面図形Ⅰ

平面図形に関する問題ですが、若干角度に関するものが多くなっています。1, 5, 7, 13, 20は定番の問題になります。

灘特訓テキストについても、動画で扱っていない問題も積極的に取り組んでみてください。